

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成29、30年度	事業者名	株式会社 日吉
補助事業名	平成29年度 短期間堆肥化法の開発および繁茂抑制に関する技術開発 平成30年度 短期間肥料化法の開発および繁茂抑制に関する技術開発		
補助事業結果概要	<p>水草の内沈水植物については、平成29年度は従来の約3年堆肥化法を短縮すべく水草に酵素処理を行い細胞壁を分解した後、発酵させる方法で堆肥化を行った。しかし、大園先生（京大）ら発酵させていない水草の肥効が良いという論文に気づき、平成30年度は乾燥させただけの水草を用いて、平成29年度の堆肥より肥効が良いという結果を確認した。</p> <p>また、侵略的外来水生植物については、平成29、30年度ともにオオバナミズキンバイのバスタ液剤による枯殺方法の開発を行った。</p>		
本年度（令和元年度） の状況 ・技術開発等の状況を含む	<p>特に注力したのは、侵略的外来水生植物であるオオバナミズキンバイの農薬を用いた枯殺についてである。用いた農薬は、グルホシネートを18.5%含有の市販薬剤（バスタ液剤）である。</p> <p>我々は、農薬投与時に直下水系への流出を出来る限り抑制できる方法を考案した。それは、元来葉や茎に展着させて用いるバスタ液剤をオオバナミズキンバイの茎に注入することで流出量を軽減することができた。さらに研鑽を積み、バスタ液剤を含浸させた爪楊枝をオオバナミズキンバイ茎に差し込み枯殺する方法を考案した。この方法では、直下水系への流出を最小限にすることに成功した。</p> <p>この枯殺方法は、石組み護岸中に生育したオオバナミズキンバイや、葦の植栽エリアに入り込んだオオバナミズキンバイなど根こそぎ引き抜くことが困難な場合に非常に有用である。</p> <p>今後は、この系を用いて野外実験を行いたいと考えている。</p>		
備考			